

[タイム] 七入(6:55)→矢櫃沢出合(7:40, 7:55)→大丈田代(10:55, 11:20)→実川(12:20)→林道終点(13:40)→七入(14:35)

モーカケ沢

1989年10月8日

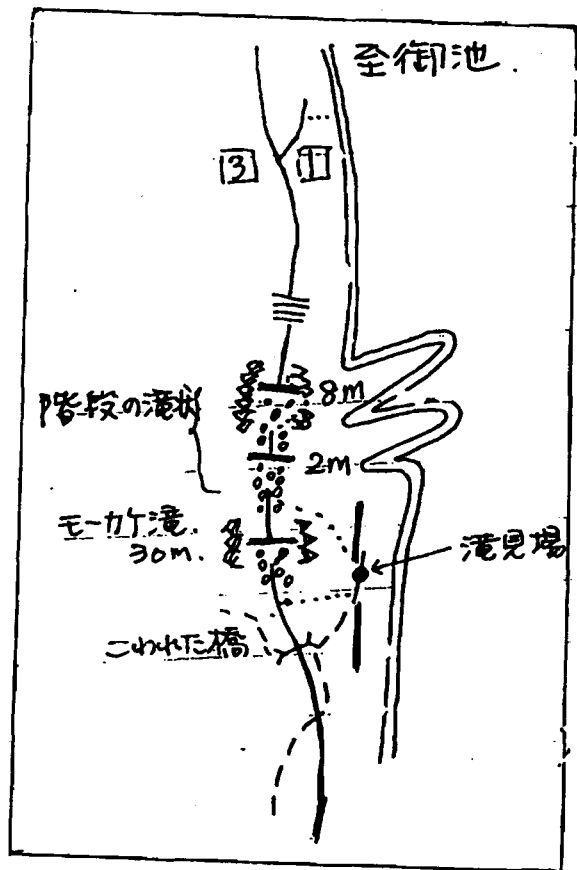
L

前日夕方に福島を発ち、七入にて車中泊。十月初旬ともなると、かなり気温が低くなってきていて、沢登りをやるには天気が心配であるが、幸いにも好天にめぐまれた。

七入からモーカケ沢の案内板に従って、沢の左岸を進むと、流された橋に出る。案内板は、左岸の尾根の方に続いていたので、そのまま進むと、「滝」ならぬ「滝見場」に出てしまった。「橋が流されたので、迂回して滝の下に行くのだろう」と勝手に思い込んでしまったのが、失敗のもとである。滝は遠くに見えている。

「滝見場」から踏跡がわずかに残る尾根を少し登ってから、モーカケ滝の上に出る。沢床は大石が階段状に続き、大きな斜瀑のように見える。しかし厳密には滝でないので、2mの滝1つを遊歩道にいれる。滝状になった沢を登ってゆくと、本物の滝の出現である。8mはあるか。夏ならシャワーで登れそうだが、この季節では思っただけでも身震いしてくる。左岸を捲いて沢に戻ることにする。

左岸岸壁は車道である。車のエンジン音が聞こえてくる。沢は平坦となり、倒木にナラタケ、ムキタケ、ブナバタケなどのキノコが顔を出している。時間も早いし、それらを採りながらのんびりと遊る。沢はナメに砂や石がかぶった



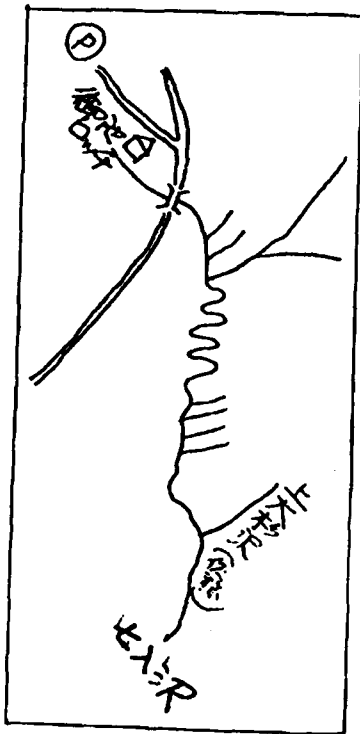
ような状態で続く。今年の紅葉はまだ早いようで、ウルシなどが色づく程度である。

9:00, 二俣に出る。水量比は3:1で本流の方が多かったが、沢は単調であり、もう滝も出ないと判断、右の支流に入る。このあたりから広葉樹に混じって針葉樹が現われる。そしてミズバショウの茂る谷地が出てくる。ヤブがかぶさってきたので、遡行終了とし、左岸の車道をめざす。10分で車道に出た。

車道のわきは、電線を埋没したところが歩道となっている。車道より一段低く、車の音さえなければ快適な散歩道である。ここを下って、飛ばしてしまったモーカケ滝の下流を下降することとした。

滝見場から直接沢に下るのは無理なので、少し尾根を下ってから沢に降りる。急斜面を木の枝につかまりながら沢へ。モーカケ滝の下は大岩がゴロゴロしていて、迫力充分。末広がりが見事な滝である。高さは約30m。しかし滝から下は何もない河原。橋の跡で沢を離れ、七入へ。 (記・)

[タイム] 七入(6:30)→滝見場(7:00)→沢(7:20)→二俣(9:00)→道路(9:15)→滝見場(10:35, 10:45)→モーカケ滝(11:00, 11:15)→七入(12:05)



御池沢(仮称)

1989年7月30日

L

天気曇。七入沢源頭の無名沢2本を遡行する予定だったが、現在地を誤認してしまい、結局御池から流れ下る1本の沢(御池沢と仮称する)だけの調査に終わってしまった。

大杉沢に入る予定の西さんたちのパーティを御池の手前で降ろし、車を御池ロッジの駐車場に置く。今日の目的の沢は、御池ロッジの後ろから流れ出している七入沢の源頭部である。沢は道路の下をくぐり、東へと流れ、高度を下げてゆく。すぐに平坦地となり、極端な蛇行を始める。方向感覚を失ってしまいそうな流れである。だいぶ歩いているようだが、距離はほとんど稼いでいない。途中で大杉沢に入っ